



September 2016

技術部ニュース

Newsletter

第 19 号

理工学系技術部広報誌

平成 28 年 9 月 1 日発行

平成 28 年度学生向け技術・安全講習会について

研修委員会では、研修の設定、資格取得の推進、近隣大学の技術発表会や全国規模の技術研究会への職員の派遣などを行っておりますが、学生に対して何ができるかという考えから検討を行い、部門毎に「学生向け技術・安全講習会」を実施するに至り、今回で 3 回目の開催となります。すでに終了した 2 部門の企画した講習の内容を部門の責任者からお伝えします。

※ 講習会の資料については下記に掲載しています。

<http://www.tsk.st.gunma-u.ac.jp/~kensyu/kosyu2016.htm>

(文責：研修委員会 山本)

1) 機器分析部門による講習

機器分析部門では、4 月 27 日 (水) 14:30~16:00 大講義室にて「化学物質の安全・安心取扱の初歩としての化学物質のリスク評価と廃液集荷に関する講習」を実施した。今年で 3 回目となり今回も昨年好評を得た廃液処理を依頼している業者を講師に迎え、三部構成で行った。第一部の「化学物質のリスク評価」では 1. 大学における化学物質管理 2. リスク評価とは 3. 健康障害防止のためリスク低減の道具として理工学部仕様に開発された【化学物質のリスク評価システム】の活用法について説明し、第二部では、廃液に関しての適正な取扱い方、貯留分類、集荷当日の搬入方法等について説明を行った。第三部では、株式会社ミヤマに各種廃液の処理方法、混合危険物による事故事例の紹介をしていただいた。受講者は、学部 3・4 年生 105 名、大学院生 74 名、教職員 8 名の総勢 187 名と盛況であった。受講者からは有益な情報を得ることができたと概ね好評であった。次回は化学物質の一元管理システムの活用法を加える予定である。

この場をお借りして、研究室内の学生へのアナウンス

等ご協力を戴きました教員の方々、事務系職員、技術職員の方々のご支援とご協力に感謝申し上げます。来年も学生の安全で安心な研究活動の一助となる様、機器分析部門技術職員一同日々研鑽し、この講習会の開催に向け、努める所存です。今後とも皆様のご支援・ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

(文責：藤生)

2) 情報電気部門による講習

情報電気部門では、6 月 22 日 (水) 14:20~15:50 電気特別実験棟 201 室にて「ハンダ付け技術講習」を実施した。

ハンダ付けとは、融点の低い金属であるハンダを使用し、主に金属同士を接合させ、手軽に強い結合強度と電気伝導性を得るものである。しかし、技術不足による不良が思わぬ災害を招くこともある。そこで、確実なハンダ付け技術の習得を目的に、理工学部の学生に対し、ハンダ付け技術の解説及び実習を行った。定員 (20 名) を上回る応募があり、主催者側で受講者を選抜し、学部 3・4 年生 12 名、大学院生 8 名で講習を実施した。ハンダ付けに関する講義を 20 分行い、その後に電子回路の作製 (赤外線モーションセンサーの製作) を 30 分行った。講習会の最後にアンケートを行ったが、受講者からはハンダ付けのコツがわかり、今後の研究や就職に役立つと好評であった。この場をお借りして、研究室内の学生へのアナウンス等ご協力を戴きました教員の方々、受講者募集にご協力頂いた事務職員の方々、工具の借用やアドバイスなど、この企画にご協力頂いた技術職員の方々に厚く御礼を申し上げます。

(文責：近藤)



機器分析部門による講習会の様子



情報電気部門による講習会の様子

化学物質管理支援システム（IASO R6）導入

法人化以来の念願であった化学物質管理支援システム（IASO R6）がついに導入された。平成 25 年 7 月、各部門、事務部、技術部からの参加者により薬品管理システム導入検討WGが立ち上がった。その後、検討を積み重ね、平成 28 年 1 月、桐生事業場安全衛生委員会内に化学物質管理専門部会が設立され、本年度より本システム運用の運びとなった。5 月 16 日（月）、20 日（金）に利用者向け説明会が実施され、化学物質管理専門部会長 中村先生のご挨拶、アドミニストレータ 菅野先生による本システムの仕様とルールを紹介、その後メーカー担当者による使い方の説明があった。参加者は 16 日が 380 名、20 日が 140 名と大盛況であった。

このシステムにより PRTR、毒劇物の調査が一元化され、春と夏に行われていた調査が不要となった。これにより、新規購入した毒劇物は、会計係の協力による登録・ラベル紙添付、その後、業者が各研究室へ配達する方式に変わった。なお、現在使用している毒劇物については平成 28 年 9 月 30 日までに、それ以外の試薬についても平成 29 年 3 月 31 日までに入力することが必要条件である。当然、毒劇物については、鍵のかかる薬品庫にて以前と同様に保管し、クロロホルム他 9 物質*と同じく重量管理が義務づけられている。また、高圧ガスボンベの使用簿も、このシステムを使用することで、省略できるようになった。

専門部会では、皆さまのご協力を切に願っている。詳細については、桐生事業場安全衛生委員会ホームページ

“化学物質管理支援システム”をご参照されたい。

http://sky.tsk.st.gunma-u.ac.jp/local/_yakuhin/

なお、疑問な点等は 化学物質管理専門部会（e-mail: k-yakuhin@ml.gunma-u.ac.jp）へのメールにて受付けている。

*クロロホルム他 9 物質：クロロホルム、四塩化炭素、1,4-ジオキサン、1,2-ジクロロエタン、ジクロロメタン、スチレン、1,1,2,2-テトラクロロエタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、メチルイソブチルケトンのこと。平成 26 年 11 月 1 日の特定化学物質障害予防規則等の改正により、使用履歴を 30 年間保管することが義務化された。

（文責：木間(富)）

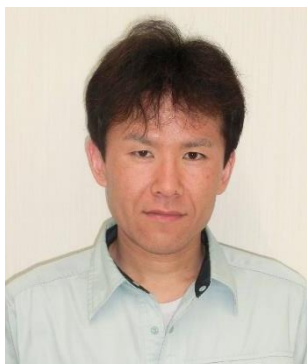


科学研究費補助金（奨励研究）に採択されました

情報電気部門（環境創生理工学科）池田正志技術専門職員の申請課題「コンクリート工学分野における学生実験テーマの開発」が、日本学術振興会 平成 28 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）奨励研究に採択されました。

ニューフェイス紹介

平成 28 年度技術部に入った新人を皆様にご紹介します。



萩原 司

機械センター部門

工場で培った知識を活かして頑張っていきたいと思います。よろしくお願い致します。



田口 温子

機器分析部門

研究経験、指導経験を生かして頑張ります。よろしくお願い致します。